

データの経済的価値の測定に関する 国際的な議論の動向

～OECD デジタル経済政策委員会 デジタル経済計測分析作業部会
での議論を踏まえて～

伊藤 万里

青山学院大学経済学部

令和3年3月1日

国際シンポジウム「AI ネットワーク社会フォーラム」
パネルディスカッション① 【AI が拓くデータエコノミー】

データの価値の測定に係わる課題

- データ が“資産”としてみなされる一方、会計上は記録されない
- 売買されうるデータの価値は捕捉可能だが、多くの場合データは企業内で作成され、事業に利活用される
- データの価値はその内容、どのように収集されたか、どのように使われるのか、“context-dependent”(文脈依存)なもの

データの経済的価値に関する4つの計測アプローチ

① データ保管費用の積算

- ➔ データの保管・管理にかけた費用を積算 ÷ データの価値
- ➔ ハードウェア、ソフトウェア、サービスの支出を調査

② データの販売収益

- ➔ データから明示的な価値を生み出す企業（データベースの収集・管理及び販売）の収益を調査

③ “データ駆動型ビジネス”の企業価値

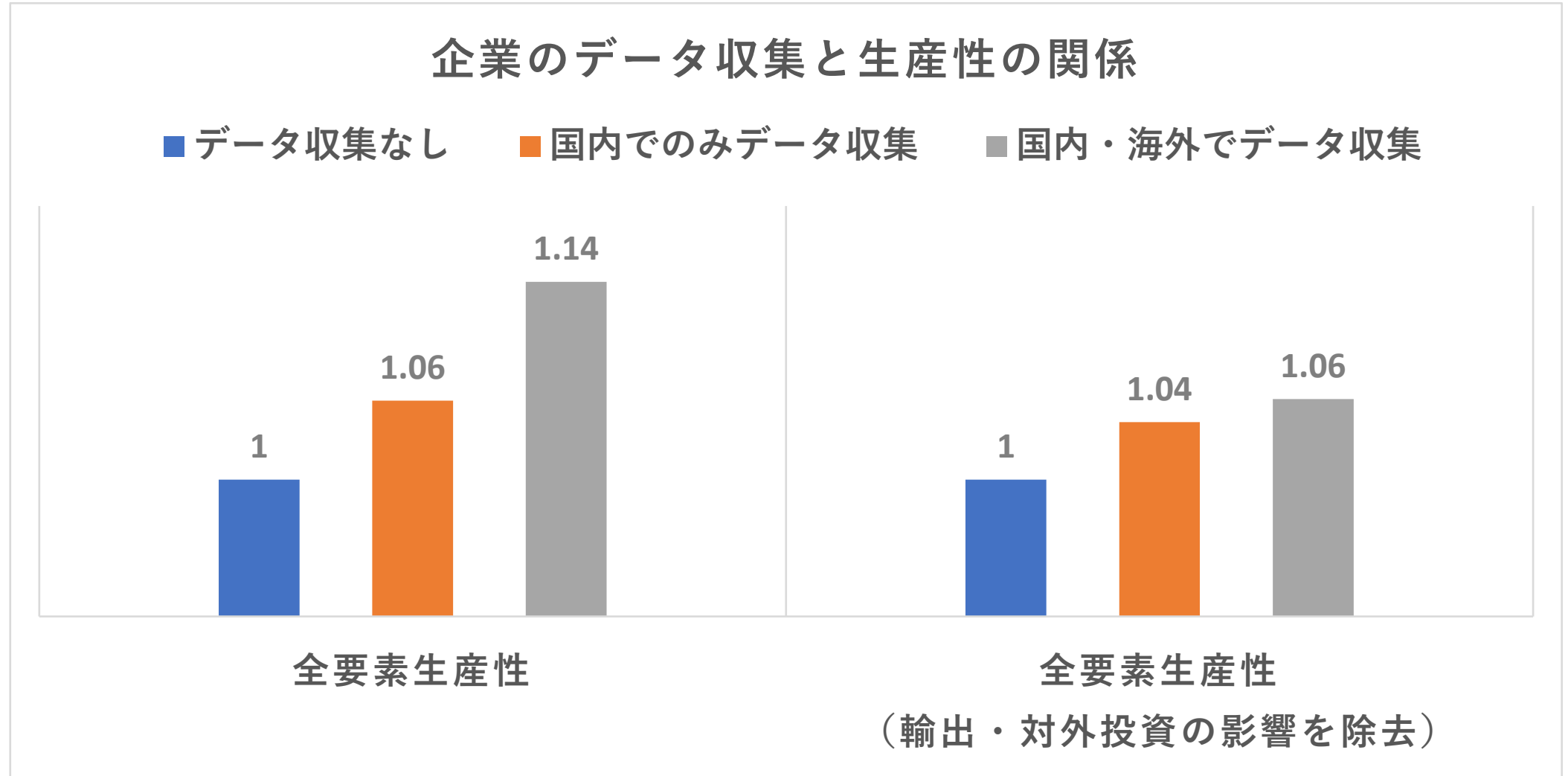
- ➔ データ保有は簿価には反映されないが企業価値（株式時価総額）には反映され得る

④ データフローの価値

- ➔ データは国を超えて共有・移転することが可能であり収益を生む
- ➔ データフローを捕捉することは困難なのでデータフローを通じた財・サービスの取引額を捕捉

④データフローの価値

日本企業4227社の生産性と海外データ収集に正の相関



出所：Tomiura, Ito, & Kang (2020) “Characteristics of Firms Transmitting Data Across Borders: Evidence from Japanese Firm-level Data” RIETI Discussion Paperより作成